

多久市の地域資源を活かした活動に関心

全国研修交流会 多久分科会でも学び合い

『第27回地域づくり団体全国研修交流会佐賀県大会』が2月5・6の両日、佐賀県一円を舞台に開かれ、県内外から地域づくり団体や自治体などの関係者560人が集いました。

佐賀市文化会館での全体会に続き、参加者は県内13の分科会会場へ移動。多久市でも、全国各地から16人を東原庁舎や西多久公民館に迎え、まちおこしや地域コミュニティ再生について語り合いました。会場では、市内の地域づくり団体等で組織した『孔子の里実行委員会』から約70人が出迎え、『子どもたちは孔子の教えを伝える伝道師～多久聖廟と女山大根を活かしたまちづくり～』をテーマに、財団法人孔子の里の林口彰さんが論語カルタ大会やジュニアガイドの取り組みなど、幡船の里の船津忠伸さんが女山大根や西多久町の地域おこしを講演し、意見交換しました。参加者は、「論語を取り入れた教育が興味深い」や「女山大根料理や朝がゆなどおいしく、近隣都市から集客できると感じた」、「女性の活躍は地域づくりに重要で男性の理解が必要」などと話し、温かいもてなしに感激されていました。



▲栃木県や愛媛県などから訪れたみなさんと、多久聖廟を案内し、歓迎したジュニアガイド

こだわりの逸品を一押し
の志岐さんと横尾市長。
一袋40と525円で販売中



昨年6月に本移動した株式会社オニザキコーポレーションの多久工場『多久美舎』から2月1日、『多久産すりごま』が新発売になりました。同社は、「食のノーベル賞」とも称されるモンドセレクション金賞受賞の『すりごま』を代表に、最高の味と香りを追求し続けるごまメーカーで、国産すりごまの本格的販売は初めて。

今期は、21人の生産者が76aで契約栽培し、種子、栽培管理、収穫作業や天日干し方法など、すべての技術がオニザキ独自で、生産者やJAと情報を共有しながら商品化したこだわりの逸品です。ネット販売で、5,000袋の限定品ですが、市内では多久市物産館『朋来庵』とJAさが農産物直売所「たくさん館」で販売しています。

生産部の志岐洋臣さんは「風味豊かで上品な味に仕上がりました。今後も農家みなさんの協力で、今年は栽培面積2ha以上を目標に生産量を増やしたい」と意欲的で、地元の人や自然、産業を活かした多久美舎ブランドづくりに邁進されています。

限定5,000袋の『多久産すりごま』新発売

（株）オニザキコーポレーション『多久美舎』

佐賀新聞社前のゴールへ 山田英樹選手



多久市チームは、残念ながら最下位となったものの、走りは颯爽とした勇姿。

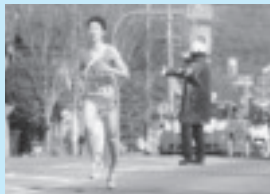
初チャレンジの新人選手を起用したチーム編成は、今後につなぐ大きな一歩となりました。



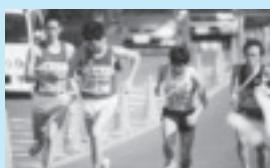
■30区 北島将太選手
(杵島商業高校前)



■31区 山下勝平選手から
32区 飯守繁喜選手へ
(小城駅前)



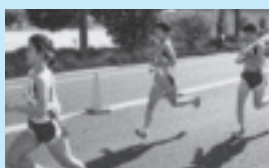
■28区 黒木勝太選手
(県立産業技術学院前)



■29区 石丸和広選手
(県立産業技術学院前)



■17区 田代眞吾選手
(北波多中学校前)



■18区 坂井夏美選手
(北波多中学校前)



■14区 平石勝吉選手
(武雄高校前)



■15区 小屋敷奨太選手
(伊万里市民センター手前)